

第6回「掃除の達人～責任感の育ち～」

「掃除なんてつまらない」。はじめさん（仮名・29歳男性）は、施設での清掃作業の時間になると、いつもそう言って渋い顔をしていました。はじめさんは中程度の知的障害があり、日常生活の様々な場面で支援が必要でしたが、特に清掃などの単調な作業を嫌がる傾向がありました。

毎日午後の清掃時間、他の利用者さんたちが掃除機をかけたり、窓を拭いたりしている中で、はじめさんだけはなかなか作業に取り組めずにいました。職員が声をかけても「疲れた」「やりたくない」と言って、作業を途中で放棄してしまうことがほとんどでした。

担当の中村職員は、はじめさんの気持ちを理解しつつも、何とか清掃作業の意味を感じてもらいたいと考えていました。「はじめさんには、きっと向いている作業があるはず」と信じ、まずははじめさんの得意なことや興味のあることを探ることから始めました。

ある日、中村職員ははじめさんが施設の玄関でじっと下を向いていることに気づきました。近づいて見ると、はじめさんは床に落ちている小さなゴミを一つ一つ拾っていました。「はじめさん、ありがとう。気づいてくれたんですね」と声をかけると、はじめさんは少し恥ずかしそうに「汚いから」と答えました。

この出来事から、中村職員ははじめさんが実は清潔な環境を好んでいることに気づきました。清掃作業が嫌いなのではなく、やり方や取り組み方に問題があったのかもしれない。

翌日から、中村職員ははじめさんと一対一で清掃作業に取り組むことにしました。「はじめさん、玄関をきれいにしてもらえませんか？昨日のように、細かいところまで気づいてくれるはじめさんをお願いしたいんです」と声をかけました。

はじめさんは最初戸惑っていましたが、「自分にしかできない大切な仕事」として任せられたことで、少し誇らしげな表情を見せました。玄関の清掃を始めると、はじめさんの集中力は素晴らしいものでした。隅々まで丁寧にほうきで掃き、モップで床を磨き上げました。

作業が終わると、玄関はピカピカに光っていました。「はじめさん、すごくきれいになりましたね。ありがとうございます」と中村職員が感謝を伝えると、はじめさんは満足そうに「きれいになった」と答えました。その表情には、これまで見たことのない達成感がありました。

翌日、はじめさんは自分から「玄関、掃除する」と申し出ました。中村職員は驚きましたが、「お願いします。はじめさんにお任せします」と答えました。はじめさんは前日以上丁寧に作業に取り組み、最後に玄関の植物の鉢植えの位置まで整えていました。

「玄関係長」と他の職員や利用者さんたちから呼ばれるようになったはじめさんは、毎日の玄関清掃を自分の重要な仕事として認識するようになりました。朝一番に施設に到着すると、まず玄関の状態をチェックし、必要に応じて清掃を行うようになりました。

ある雨の日のこと、玄関が泥で汚れてしまいました。はじめさんはそれを見つけると、す

ぐに清掃道具を取りに行き、黙々と掃除を始めました。「雨の日は大変ですね」と職員が声をかけると、「僕の玄関だから」と責任感のこもった答えが返ってきました。

はじめさんの変化は、清掃作業だけにとどまりませんでした。自分の持ち物の整理整頓もきちんとできるようになり、他の活動でも最後まで取り組む姿勢が見られるようになりました。「きれいにすると気持ちいい」ということを実感として理解したはじめさんは、生活全般に対する意識が変わっていきました。

施設を訪れる見学者や新しい利用者さんが「玄関がとてもきれいですね」と褒めてくれると、はじめさんは照れながらも「僕が掃除してます」と誇らしげに答えるようになりました。その姿を見ていると、仕事に対する誇りと責任感が確実に育っていることが分かりました。

ご家族にこの変化を報告すると、お母さんは「家でも進んで掃除をするようになったんです。『きれいにする』って言いながら、一生懸命やっています」と嬉しそうに話してくれました。お父さんも「責任感が出てきましたね。頼りになります」と喜んでいました。はじめさんの成長は、他の利用者さんたちにも良い影響を与えました。「はじめさんみたいに、僕も自分の担当を決めたい」「窓拭きを頑張りたい」という声が聞かれるようになり、施設全体の清掃への取り組みが向上しました。

半年後、施設では清掃作業の時間に「今月の MVP」を発表することになりました。初回の MVP に選ばれたのは、もちろんはじめさんでした。表彰状を受け取ったはじめさんは、満面の笑みを浮かべながら「もっと頑張る」と力強く宣言しました。

はじめさんの物語は、どんな作業でもその人に合ったアプローチを見つければ、大きな成長につながることを教えてくれました。「つまらない」と思っていた清掃作業が、今では誇りと責任感の源となっています。

今日も、はじめさんは朝一番に玄関の清掃に取り組んでいます。その真剣な姿を見ていると、働くことの意味と、自分の役割を持つことの大切さを改めて感じずにはいられません。施設で一番きれいな玄関は、はじめさんの成長の証なのです。